

杜の都女性科学者ハードリング支援事業

(実施期間：平成18～20年度)

実施機関：東北大学（代表者：井上 明久）

課題の概要

東北大学女性研究者育成支援推進室を設け、以下の支援を行う。

1) 育児・介護支援プログラム

育児・介護支援のための短時間勤務や休業制度の弾力的運用の検討、試行及び実施を行う。また推進のためにインセンティブを付与する。同時に育児・介護との両立を考慮した研究・教育業績評価制度を検討および提案をする。

2) 環境整備プログラム

東北大学病院で運営中の病児保育施設を拡充する。環境整備について提案、助言を行い、また財政的な補助も行う。

3) 次世代支援プログラム

博士課程進学的女子学生支援や研究者を志す女子学生啓発のための母校への出張セミナーや女子学生ネットワークの整備を実施し、東北大学女性研究者フォーラムによる交流会を開催する。

(1) 総合評価（所期の計画と同等な取組が行われている）

所期の主要な計画（育児・介護、環境整備、次世代育成プログラム）を全学的に推進し、概ね計画どおりに成果を得ていることが評価できる。特にサイエンスエンジェルは特徴のある取組であり、女子学生の自己表現、意識向上に効果的なプログラムであり成果を収めており、今後、理科系を目指す女子学生の増加に貢献するものと期待できる。これらの取組によって女性教員比率も増加してきているが、本課題の実施により整備された環境をベースとして、部局毎に高い目標を掲げ、研究分野における男女共同参画を推進されることを期待する。

<総合評価：B>

(2) 個別評価

①目標達成度

女性教員採用比率は徐々にではあるが着実に上昇しており、環境整備とともに取組の成果が得られている。また、サイエンスエンジェル制度は目標を超え、自主的に実施者として参加した学生が自己成長するという優れた成果も生み出している。全学の意思決定機関への女性参画（全学委員会の女性委員比率30%以上）については目標未達となったが、高位職階の女性研究者がまだ少なく、かつ、意思決定への関わりが特定の女性研究者の負担になりかねない状況において、全学の意思決定機関である評議会等に女性教員の参画が進んだことは評価できる。部局ごとの採用目標設定に関する採択時コメントへの対応については、検討結果を示すに至らず、次の拡充施策へ向けて更なる努力を期待する。

②取組の成果

支援員の派遣、ベビーシッターの利用料補助、短時間勤務制度、育休期間に相当する任期延長など多彩な支援を先駆けて実施しており、全学システムの構築を行い取り組んだ課題については多くの成果を得ている。特にサイエンスエンジェル制度による女子大学院生支援などは、独自の

具体的なアクションであり高く評価できる。なお、現時点では新規採用者の中での女性比率は十数パーセント台の微増にとどまっているが、今後は、総長や役員などのリーダーシップによって更なる増加も期待できる。

③取組の妥当性・効率性

子育て支援は女性研究者のニーズを踏まえ、着実に実施されており、高く評価できる。また、教員と学生の双方を対象とした取組が効果的に機能している。

④波及効果

サイエンスエンジェル制度は全国の中高校女子学生への啓発効果が高く、実施者として参加した女子大学院生に対しても発表スキルとモチベーションの向上、更に人脈形成にも役立っており、高く評価できる。参加者の満足度も高く、メディアや他大学にも注目され、高く評価できる。今後の継続的な発展を期待する。

⑤実施体制の妥当性

育児・介護できる環境整備、次世代支援策等において多くの成果を得ることができたことから、女性研究者育成支援室を中心とした実施体制は適切であると評価できる。また、部局単位での支援制度や取組は活動の全学への広がりにつながるものであり、理事・副学長が支援室長としてリーダーシップを発揮することにより、全学的な取組が保証されている。また、評議会、総長特別補佐への女性就任など、意思決定レベルへの参画を推進し、目標とした比率 30%は未達ながら、最上位の意思決定機関まで女性が参画していることは高く評価できる。

⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

本取組の3年間の活動及び得られた成果を、学内予算を措置して継続的に発展させていくことを目指している点、全課題を継続するとともに体制も強化している点、継続発展を宣言している点などが高く評価できる。支援推進室の規模も拡充され、更なる発展が期待できる。今後、実際の女性研究者増加に向けて更なる継続的な取組を期待する。

(3) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の成果	取組の妥当性・効率性	波及効果	実施体制の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
B	b	a	a	a	a	a